(株) グリッド総合研究所 (GRI)

グリッド技術の応用と実用化へ向けて

関口　智嗣　産業技術総合研究所グリッド研究センター長
(株) グリッド総合研究所　技術顧問

グリッド総合研究所が目指すもの

近年のネットワークの高速化に伴い、ネットワーク上に分散した計算機資源を有機的に結合し、仮想的な巨大コンピュータシステムを構築するグリッド技術が脚光を浴びている。しかしながら、このグリッド技術を如何に世の中に普及させ、ひとつの産業として成り立たせるために、どのような基盤技術が必要で、さらにどのようなビジネスモデルが考えられるかはいまだ模索の段階である。(株) グリッド総合研究所ではグリッド技術を用いたビジネスモデルの構築と展開を目指す。

開発技術

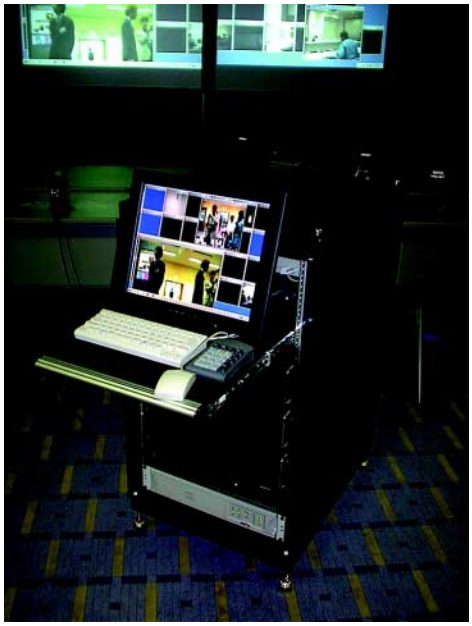
日本におけるグリッド技術は約10年程前より行われている旧電子技術総合研究所を中心としたNinf (Network based Information library for High Performance Computing) プロジェクト*に遡る。そういう意味において産総研は日本におけるグリッド技術の草分け的な存在である。

当社はこのNinfプロジェクトの生みの親である産総研グリッド研究センターと共同でグリッド技術を用いた「仮想オフィス環境技術」と「ASP (Application Service Provider) 技術」の2つのテーマについて開発を行い実用化までの評価を行う予定である。

仮想オフィス環境技術とは「アクセスグリッド」と呼ばれる技術（写真）であり、遠隔地で離れたオフィス同士を仮想的にひとつのオフィスとするための技術である。現在この技術は、特に研究所同士の接続に多く利用されているが、当社ではこの技術を実用化するための技術開発を行う。

ASP技術はグリッド技術の中でも中心的なテーマとなる技術であり、ネットワーク上に接続されている計算機資源をまるで水道の蛇口をひねると水がでてくるように使うための技術である。もちろん使用した分の課金をとることが重要である。ここでいう計算機資源とは、計算そのものであるCPU資源だけでなく、ディスクいわゆるストレージ資源、データベース資源、さらには特殊用途の実験装置などもひとつの資源として考えられる。

以上のように当社はグリッド関連技術の開発のみならず、その技術の商用化が大きなテーマであると考えている。



●写真　アクセスグリッド

●会社概要

社　名	：株式会社グリッド総合研究所
会社設立	：平成14年3月15日
資本金	：1,000万円
取締役社長	：西　克也
本　社	：茨城県つくば市松代3-17-6
事業所	：茨城県つくば市千現2-1-6 つくば研究支援センター
連絡先	：TEL 0298-60-7080 FAX 0298-60-7081

●主な事業内容
- アクセスグリッドの開発販売サポート
- グリッド技術を用いたシステム開発およびシステムインテグレーション
- ASP事業

＊Ninfプロジェクト
広域ネットワーク上におけるサーバー・クライアントモデルのシステム構築のためのプロジェクト。ネットワーク上の数値データや計算資源に対し、ユーザーはその場所を意識することなくアクセスできるようにすることを目的とする。関口グリッド研究センター長（当時：電総研）が約10年前に提唱し以来開発が進められている。